

全科協ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成17年1月1日発行 (通巻第200号)

イコム世界大会について ICOM 2004 SEOUL

1. はじめに

ICOM (国際博物館会議) の国際会議及び総会は3年に1度の頻度で開かれている。前回会合(2001年、スペイン・バルセロナ)を受け、今回は、平成16年10月2日から8日までの間、「博物館と無形遺産」を主題に、大韓民国ソウル市 (COEX センター) で開催された。

会議には世界の102の国・地域から約1,137人 (日本からは53人が参加。)の博物館関係者等が出席し、主題に即した全体会議のほか、さまざまな課題を扱う分科会や、教育、科学技術などの分野別国際委員会等約37の委員会会議が同時開催された。

2. 主なスケジュール

- 9/30~10/1 …事前諸行事 (倫理委、諮問委等)
 10/2 ……李明博 (イミョンバク) ソウル市長主催歓迎
 レセプション
 10/3 ……開会式
 基調会合、フォーラム
 10/4 ……諸国際委員会の会合等
 文化プログラム
 10/5~10/6 …諸国際委員会の会合等、文化プログラム
 10/7 ……近郊見学会
 10/8 ……閉会式

迫力を感じたイコム世界大会

秋田県立博物館長 佐々田 亨三

第20回国際博物館会議 (ICOM) の国際大会及び21回の総会が今年の10月2日から8日にかけてソウルで開催された。大会は3年に一度、しかもアジアでは初、日本からは科博理事の河上氏 (国際博物館の日実行委員長)、日博協の専務理事五十嵐氏、提案者の国立民族学博物館長の松園氏をはじめ50数名に及んだ。

今回のソウル大会のテーマは「博物館と無形文化遺産」で、「文化は形をとって現れる有形文化財だけではなく、無形の要素を通して顕現する」、それに大会では「無形文化遺産のルーツは我々の魂にある」(コンゴ国博館長談)などの観点から、言語、芸能、音楽、習慣等世代から世代へと受け継がれている無形文化財にも領域を超えて取り組む必要性が強調された。文明は衝突するものではなく相互依存的なものであり、調和と共存の中で繁栄する生命体であると

の理念や、博物館はお墓から掘り出した文化財・遺物を整理する最終的な空間ではなく、人間の生命が宿った言葉や踊り、お祭りなど、全てのシチュエーションで繰り広げられる視覚的・聴覚的な膨大な精神文化の資料を「デジタル・アセット (digital asset)」に変える出発の空間にもなるべきだとの議論には今後の博物館の経営にも大いに刺激になることであった。

特に韓国のキーン博士 (大学の博物館長) は、古びた農村の黄土、窯、穀物倉庫、伝説、それに自然的な文化遺産等を地域の人々の協力を得て、無形文化財としての具現化に努め、地域文化と住民のプライドを回復させたことを報告し、農村との共同の大切さを訴えていたが、それを聞いて、日本のいわゆる「丸ごと博物館」ないしはその構想は地域住民とどうかかわり、目的は何かなどの吟味と展望の



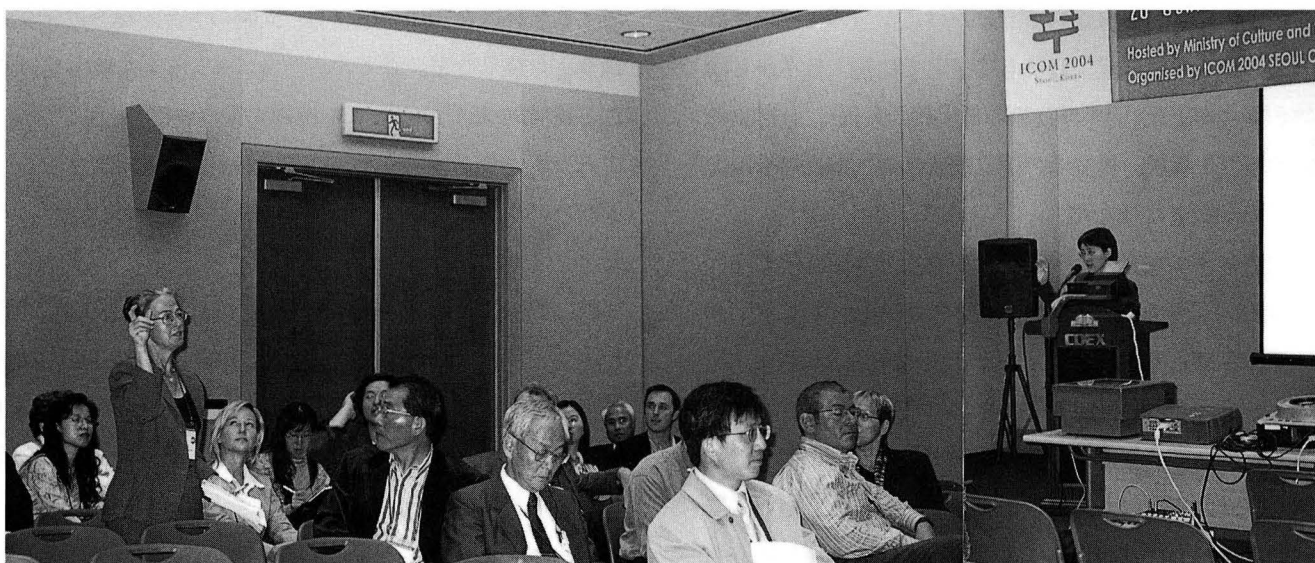
歓迎レセプションでのパフォーマンス

提案のもとで展開されるべきで、博物館の調査研究が、国や地域づくりにどれだけアピールできるかを考えさせられた。経営分科会では台湾のチュー氏の絵画、舞台芸術等の13の実践プランを報告した博物館構想が印象的である。

その他、参加して感じたことは、自然物の収集・展示等の有形物も言語、芸能等多様な無形の活動を通して表現され、価値を高めることができると確信できたこと、デジタル技術とマルチメディア等の活用により、少数民族の無形文化財を発掘して、ヨーロッパに偏重していた人類の暮らしの価値を多様化し、共有できるようにしようとする考え、特にこのことについては韓国の熱い願いが現れていたこと

である。また、大会期間中に「韓国の伝統無形文化遺産の活力と心」をテーマに伝統的な王家の衣装、パンソリ（韓国の語り芸）、舞踊など多彩で、しかも議論と結びつくタイムリーな実演であった。さらに、日博協のもとで作成された博物館づくりのすぐれた構想を再度吟味、実践することこそ世界の動向に応えることになると感じた。

いずれ韓国の、先端技術を駆使して無形文化財を発掘しようとする提案は広くアジアの文化の旗手たらんとする意欲の現れとも感じ、迫りに満ち、多くの示唆を得る大会だった。



経営分科会の様子

ICOM 2004 SEOUL に出席して

国立科学博物館 高橋 美樹

第20回 ICOM 国際大会及び第21回 ICOM 総会が韓国で開催された。国立科学博物館からは、私を含め5名が参加した。以下はその報告である。



COEX コンベンションセンター

会場などについて

会場のある江南区は、ソウル市の南東部に位置し、成田空港から飛行機で2時間30分、その後高速バスで約2時間の所にあった。

会場となった COEX コンベンションセンターの周りには、ホテルやデパートが建ち並び、地下には COEXMALL と呼ばれる総合文化施設があった。ここは、ショッピングモール、レストラン、水族館や映画館など、多様な娯楽施設を兼ね備えていた。

ICOM の会場は、COEX コンベンションセンターの3階・4階を利用した。3階には、20～50人が集まれる会議室が約40室あり、ICOM 組織委員会及び国際委員会の会場とし

で使用された。委員会によっては、同時通訳のブースが設けられている部屋もあった。また同じフロアには、レセプションと基調講演用に、千人程度が着席できる会場と、博物館や企業が25ものブースを設けた展示会場の2つが用意された。4階には、同時開催セッションを開くための講堂と2つの会議室が設けられていた。会場はいずれも基本設備が整っており、また、3階と4階の2つのフロアに集約されていたため、移動がしやすく、落ちついて参加することができた。

国際委員会について

10月4～6日の3日間で国際委員会が行われた。20を超える委員会は、それぞれ博物館学や現代美術など、扱う内



基調講演の様子

容ごとに分化しており、参加者は、興味関心に従って、3日間とも異なる委員会に出席することも、1つの委員会に絞って出席することも出来た。

委員会の中で私が参加したのは、CECA（教育と文化活動国際委員会）とCIMUSET（科学技術博物館・コレクション国際委員会）の2つである。

CECAでは、「博物館教育と無形文化遺産」、「博物館と潜在的来館者」及び「博物館教育の多様性」の3つのテーマが設けられていた。このうち私が参加した「博物館と潜在的来館者」では、潜在的来館者が博物館を利用するためにはどのような環境を準備すべきか、博物館と来館者をつなぐ手段にはどういったものがあるのか、さらに、継続して博物館が利用されるにはどのように取り組めばよいかといった話題について発表があった。

CIMUSETのテーマは、「科学技術系の博物館における無形文化遺産について」であった。発表の内容は、展示品とともに、その背景にある歴史やそれを作った職人などを紹介することで、形としては残りにくい「技術」の重要性を来館者に伝えられるというものだった。また、今回のICOM全体のテーマである「博物館と無形文化遺産」(Museums and Intangible Heritage)のIntangibleを「目に見えない」と解釈して、「宇宙のように」大きすぎる、または「遺伝子のように」小さすぎるため、「目に見えない」最先端科学を博物館の中でどのように展示するのかということについての発表もあった。

全体的にパソコンによる発表が多かったが、グラフや図を使ってデータをまとめたり、ドキュメンタリー風の映像を流したり、OHPで博物館の活動を紹介したりと発表形式や方法は様々だった。

委員会の発表者はすべて事前に決まっており、その内容

をあらかじめ資料として配ることもあった。1人につき15～20分程度の発表の後、質問を受けたり、意見を交換したりする場合もあった。発表者からも参加者からも、自分の知っていることや考えていることを互いに共有しようという姿勢が感じられ、各発表とも興味深かった。

休憩時間には、会場内でこれまでに開催した委員会の様子が映像で流され、初めて参加した人にも委員会の歴史が共有できるような配慮がなされていた。また、委員会の中心メンバーがお互いに声を掛け合ったりして、古くからある委員会ほど、参加者同士互いの出会い・再会を喜び、発表や情報の交換を通じて、刺激しあえる場を育てているという意識が感じられた。

韓国の博物館について

CIMUSETのプログラムには、博物館の見学が組み込まれており、国立中央博物館、国立民族博物館、ソウル国立科学博物館を訪問することが出来た。以下、各館を見学した際に気がついた点をあげる。

・国立中央博物館 (NATIONAL MUSEUM of KOREA)

外国の博物館を訪問すると、館内に掲示してあるサインなど、自国の博物館では日頃あまり意識しないものが目に付くことが多い。この博物館では、休憩スペースやミュージアムショップを表すサインのイラストが自館とは異なり興味を引いた。また、館内ではガイドツアーが行われており、ガイドの方が話される英語が流暢でとても分かりやすく、展示に対する理解が深まった。

・国立民族博物館 (NATIONAL FOLK MUSEUM of KOREA)

美術

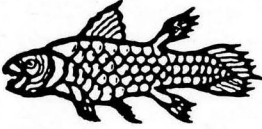
はく製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース

有限会社 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 ☎047-337-5678
千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564
E-mail:toyobken@taupe.plala.or.jp



INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT

西

ONY KOBORO CO.,LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階
TEL(03)3221-1102代 FAX(03)3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

建物の外観からはとても荘厳な印象を受けるが、一度中に入ると、かわいらしく、色鮮やかな展示が待っていた。人形を使ってキムチの製造過程を説明したり、昔の生活をジオラマなどで丁寧に紹介していた。また、外国人への配慮も行きとどき、日本語の音声ガイドや展示解説も用意されていた。

・ソウル国立科学博物館 (SEOUL NATIONAL SCIENCE MUSEUM)

地上5階建てのうち4階までが展示スペースとなっていた。案内をしていただいた人の話によると、職員は30人で、その他にボランティアとして20人が登録しているとのことだった。

入館が閉館時間近くになってしまい、あまり詳しく見ることはできなかったが、工作や実験等を行う部屋がいくつもあり、教育普及活動に力を入れているようだった。私が見学した陶磁器の講座では、年齢制限はなく、事前申込なしで講座に参加できた。値段が講座によって異なるが、参加費は実費のみだった。陶器は乾燥に1ヶ月かかるので、窯焼きのため1ヶ月後に再度来館して焼くことになっているそうである。

最後に

今回、世界102の国と地域から1,137人が参加した。大会の間、こうした各国からの参加者と多く出会い、様々な博物館やそこで行われている教育普及活動、さらにはその国の文化などについて話を聞くことができた。いろいろな国の人が集まったが、お昼や少しの休憩時間にも積極的に声をかけ、生き生きと自館の話をする姿には見習うべき点が多かった。

会場では、登録番号と氏名が記されたネームカードを常時首から下げておくように求められたが、基調講演の前には、あらためて参加者に対しパスポート確認と手荷物検査が行われた。空港以外で初めてこのように厳重なセキュリティチェックを経験し、驚きとともに、テロの危険性を拭い去りきれない現在、運営側も、参加者も、安心して集える体制づくりについて、今後も留意しておかなければいけないのだという印象を強く受けた。

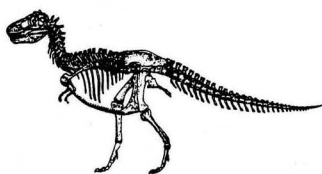
レセプションや基調講演では、舞台上で繰り広げられた踊りや講演の様子が画面で映し出され、照明などの視覚的演出も重なって盛大であった。特に韓国の色鮮やかな宮廷衣装や力強い伝統芸能の数々には開催国としての思い入れを感じた。また、会場や委員会の運営等では、韓国の博物館職員やスタッフの方々が参加者に少しでも多くの情報を提供しようと奔走され、その姿と彼らの温かい笑顔が印象に残った。

委員会での発表者の中には、韓国の博物館で働く人や大学で博物館学の教鞭をとっている人も多く、韓国の博物館事情を多く知ることが出来た。「ここ10年博物館が増加している」と、「週休5日制の導入や生涯学習の観点から、一般の人が博物館見学を余暇における一つの選択肢としてみならず様になった」ことを委員会の発表を通じて知った。

韓国文化観光部のHP (<http://www.mct.go.kr/english/index.jsp>)によると、韓国国内には10の国立博物館、223の公立および大学所属の博物館、80を越える私立の博物館が存在している。

また、今年(2005年)の秋には、ソウル市の中央に位置する龍山区に新国立中央博物館が開館する予定である。新たな国立博物館の開館を控え、活気ある雰囲気の中で開催されたICOMに参加でき、有意義な滞在となった。

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式
会社

ゼネラルサイエンス

コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802

TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

ミュージアムの集客を強力にサポート
新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】



イベント情報ポータルサイト

EventNAVI

<http://www.eventnavi.ne.jp>

全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。
企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご利用ください。

イベント情報
無料登録受付中!

株式会社 乃村工藝社

本社：東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話 03-3455-1171(代)
ホームページ <http://www.nomurakougai.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工
ISO9001認証取得(文化環境カンパニー) ISO14001認証取得(IMCカンパニー)

ワークショップ「21世紀型科学教育の創造II」開催について

ー生涯学習施設における科学コミュニケーションのすすめー

実行委員長 田代 英俊 (科学技術館)

1. はじめに

これからの社会における科学教育のあるべき姿を考えるため、科学教育・生涯学習に関わる有志が集まり、平成15年度より「21世紀型科学教育の創造」というワークショップを開催し継続的に議論を進めている。

昨年度は「交流」をテーマとしてワークショップを開催した。ワークショップ参加者同士の交流はもとより、生涯学習施設と他組織、例えばマスコミや研究者の方々等、それぞれの交流のあり方を軸にディスカッションを行った。その中で、特に共通の課題として浮かびあがってきたのがコミュニケーションというテーマであった。「異分野との交流・連携」「市民とのつながりのあり方」「専門家とのつながり」など、いわゆる「連携」「コミュニケーション」のあり方を問うことが、博物館活動、生涯学習施設の活動をより活性化するのではないかという意見である。この議論をもとに、本年は11月22日、23日の両日にわたって、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「生涯学習施設における科学コミュニケーション」をキーワードに意見交換を行った。

2. ワークショップの概要

ワークショップの概要は以下の通りである。

2004年11月22日 (月)

1. オリエンテーション
2. 基調講演 小川正賢氏(神戸大学)
 - 「理工系人材開発の包括システムとしての科学教育体系化ー科学コミュニケータはどこに位置づくのーかー」
3. 話題提供 小川義和氏(国立科学博物館)
 - 「科学コミュニケーションにおける博物館の役割」
 - 小泉成史氏(テレビ朝日)
 - 「ジャーナリストの役割」
4. グループディスカッション 1
 - ・「科学教育と科学技術政策の過去・現在・未来」〈座長：永井智哉(科学技術振興機構研究開発戦略センター)〉
 - ・「人材・資源指定管理者(経営)」〈座長：高安礼士(千葉県総合教育センター)〉
 - ・「情報戦略・理論と実践ーミュージアムにおける科学コミュニケータの資質向上の方策ー」〈座長：鷹宏道(平塚市博物館)〉
 - ・「情報戦略・理論と実践ーコミュニケーションギャップー」〈座長：木村かおる(科学技術館)〉
 - ・「情報戦略・理論と実践ージャーナリストの役割と視点ー」〈座長：境真理子(日本科学未来館)〉



グループディスカッション

- ・「科学教育と科学コミュニケーションの違いは何か？」
〈座長：白川友紀(筑波大学アドミッションセンター)〉
- ・「科学コミュニケーションにおけるデジタル技術の可能性」〈座長：奥野光(科学技術館)〉

5. 講演 瀬名秀明氏(作家)「科学を伝える 研究者として、作家として」

6. 懇親会

11月23日(火)

1. 各グループディスカッションの前日の内容紹介
2. グループディスカッション2
3. 全体会まとめ

基調講演、話題提供を行った後、テーマごとに参加者にグループに別れていただき、グループディスカッションを軸にワークショップを進めた。それぞれの参加者が今抱えている課題や将来への展望を忌憚なく意見交換し、そこから今後の活動のための様々なアイデアが提案された。例えば「文化としての科学教育をボトムアップで作っていく必要性」や「社会における生涯学習施設の存在価値の明確化の必要性」という、社会における生涯学習施設の価値を明確化していこうとする議論や、あるいは「生涯学習施設をメディアとして捉え、他のメディアに対する優位性、特徴をどのように捉え、どのように活かすかの検討」、「研究者と生涯学習施設担当者が連携するための組織立った情報交換システムの在り方の検討」、「生涯学習施設という場を拡張するための、インターネットを用いたネットワークコミュニティの確立」という具体的な活動に関する議論まで、実

に幅広い、活発なディスカッションが行われた。

詳細については、各グループリーダーより報告がまとめられているので下記 HP をご参照いただきたい。

<http://www.sci-edu21.org/>

3. 今後の活動

このような議論は、次の活動につなげてこそ価値がでてくる。今後、ワークショップで議論された内容を共有し、継続的な活動を行う為に、メーリングリスト上で更に議論を深めていくとともに、試験的なワーキンググループを作って、研究者と科学系生涯学習施設のスタッフが一体となった連携活動の具体化を行いたいと考えている。

また来年度は、国立科学博物館の小川義和氏を実行委員長として、本年度ワークショップで出された課題をより多角的に捉えながら、生涯学習社会に求められる科学教育系人材の専門性と育成を中心テーマとして開催を予定している。

今回参加された方々のみならず、より多くの方々の参加をお願いしたい。

4. 謝辞

今回のワークショップは、130名にも及ぶ参加者の熱意はもとより、企画委員、講師、協力者、そしてなにより実行委員の尽力なくして行うことはできませんでした。ここに謝意をあらわします。また、本ワークショップは子どもゆめ基金(独立行政法人オリンピック記念青少年総合センター)の助成により開催することができました。ありがとうございました。



小川正賢氏基調講演

じめ、爬虫類、初期の鳥類、昆虫や植物が見られる。中でも、ハトの大きさの孔子鳥 (Confuciusornis) や約2メートルのベイピャオサウルス (Beipiaosaurus)等の羽毛恐竜の等身大模型も見られる。

企画展「Dinosaurs Alive: Ancient Fossils, New Ideas」は、2005年5月14日にアメリカ自然史博物館を皮切りに(2004年1月8日まで)、その後ヒューストン自然科学博物館(2006年7月)、カリフォルニア科学アカデミー(2006年10月)、フィールド博物館(2007年5月)、ノースカロライナ州立自然科学博物館(2007年12月)の各館を巡回する予定だ。

Dinosaurs Alive: Ancient Fossils, New Ideas.

<http://www.amnh.org/exhibitions/dinosalive/>

米フィールド博物館、メンデル展を準備中

遺伝学の祖であるグレゴール・メンデル(1822-1884)の業績を紹介した企画展が、2006年秋からの開幕に向けて、フィールド博物館(シカゴ)で準備が始まった。同展は、ウィーンのゲノム研究所(Vereinigung zur Foerderung der Genomforschung)をはじめ、チェッコのブルノにあるメンデル博物館や、メンデルがエンドウの交配実験を行った聖トーマス修道院からの協力を受けて、メンデルの業績を紹介する計画だ。またメンデルの業績を引き継いだ20世紀における遺伝学の発展と、遺伝学を使った系統分類学、生物多様性および生物進化の研究の最前線も紹介される計画だ。

企画展『グレゴール・メンデル：遺伝学の天才』は、2006年秋にフィールド博物館を皮切りに、2008年まで北米の6ヶ所の博物館で巡回されることになっている。

Gregor Mendel: Genius of Genetics.

<http://www.fieldmuseum.org/exhibits/traveling-mendel.htm>

ニューヨーク科学館、増改築工事が終了、2004年11月に公開開始

ニューヨーク科学館(New York Hall of Science)に約500㎡の展示コーナーが拡張されて、2004年11月23日に一般公開が始まった。

新しく拡張された展示コーナーは、地球と火星とエウロパ星の環境を比較紹介した「The Search for Life Beyond」、6歳以下の乳幼児を対象としたプレイコーナー「Preschool Place」、クライミングウォールやサーフィン

グ練習ができる「Sports Challenge」、数学が楽しく学べる「Mathematics-A World of Numbers」等。総工費6800万ドル。

New York Hall of Science.

<http://www.nyscience.org/expansion/>

英リバプール博物館、2005年4月末に新装オープン

総合博物館であるリバプール博物館(国立マージサイド博物館機構の旗艦)は、総工費3500万ポンドをかけて、二倍の規模になって、「ワールド・ミュージアム・リバプール」として2005年4月29日に新装オープンする。規模拡張にともなって、新たに世界文化ギャラリー、ディスカバリー・センター、水族館、自然史センター、昆虫館等が設けられることになっている。

世界文化ギャラリーは、民族学がテーマになっており、世界各地の民族の物質文化と信仰世界が展示されることになっている。

ディスカバリー・センター(Weston Discovery Centre)では古今東西の物質文化が手で触れられるかたちで紹介されることになっている。観客による楽器の試演奏をはじめ、織り機を使った布の制作や先史時代の石斧づくりも計画されている。

水族館では、世界各地の海から取り寄せた魚が紹介され、また南アメリカ大陸の川も再現され、熱帯雨林における生物多様性も紹介されることになっている。

自然史センター(Clore Natural History Centre)は、新しく生まれ変わる同館の目玉として位置づけられており、同館が所蔵する膨大な自然史コレクションの中から約2万点の標本が手で触れられるようになる。カバの頭蓋骨やマンモスの歯をはじめ、南米の熱帯雨林に棲息する珍しいチョウの標本も間近に見ることができる。また生きた生物に触れる体験重視型のイベントも計画されており、同館で飼育されているフクロウやヘビも手で触れられ、料理された虫の試食も異文化の食生活の教材として位置づけられている。

昆虫館(The Bug House)では、さまざまな昆虫だけでなく、クモ形類動物や多足類が、数多く飼育され、見ることができる。World Museum Liverpool.

<http://www.liverpoolmuseums.org.uk/>

* (やすい・りょう) E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

1月2月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
サンピアサ水族館	冬休み特別展「にょろにょろフェア」	12月18日～1月16日
むつ科学技術館	巡回展「ナーノの冒険“バイオ編”“IT編”」	11月3日～4月14日
岩手県立博物館	テーマ展「新指定文化財展」	1月15日～2月20日
牛の博物館	家族で楽しむ企画2005「コケッココー！」	11月25日～1月30日
秋田県立博物館	企画展「花の森への招待状」ー工藤茂美写真展ー	12月4日～1月16日
	企画展「秋田の手しごと」	1月29日～4月10日
ふくしま森の科学体験センター	「科学市場」	12月2日～3月2日
つくばエキスポセンター	特別展「もうすぐ開業 つくばエクスプレス展」	11月27日～1月30日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第32回企画展 茨城の自然を調べるー第3次総合調査「マンボウが夢みるブナの森ー茨城県北東部の自然 海・山・川物語ー」	12月11日～2月27日
栃木県立博物館	テーマ展「おじいさんやおばあさんの子供のころの暮らし」	9月26日～3月31日
	テーマ展「石に刻まれた祈りー板碑を通してー」	12月5日～1月30日
	テーマ展「谷文晁とその周辺」	12月5日～1月30日
	テーマ展「行列図の世界」	2月11日～3月31日
	テーマ展「室町時代の狩野派」	2月11日～3月31日
	テーマ展「栃木県の脊椎動物化石」	7月10日～3月31日
川口市立科学館サイエンスワールド	特別展「自転車展ー走れ疾風の如くー」	11月20日～1月23日
さいたま市青少年宇宙科学館	企画展III 赤道直下の魚展	1月29日～3月21日
所沢航空発祥記念館	特別展「深海への挑戦ーしんかい6500と深海生物ー」	1月2日～2月20日
埼玉県立自然史博物館	企画展「パラサイトな植物たち」	1月6日～3月31日
千葉県立現代産業科学館	五市（船橋・市川・浦安・習志野・八千代）中学校合同技術・家庭科作品展	1月18日～1月23日
	第28回千葉県少年少女発明クラブ作品展	2月8日～2月13日
東金こども科学館	全国科学館連携協議会巡回展「毛利宇宙飛行士の部屋」	12月17日～2月16日
国立科学博物館	特別展「翡翠展 東洋の至宝」	11月13日～2月13日
機械産業記念館（TEPIA）	「e-ライフ展」PART II	1月14日～3月17日
船の科学館	企画展「世界のロイヤルヨット今昔物語」	12月25日～1月30日
	企画展「小笠原へ行こう！」	2月11日～3月21日
たばこと塩の博物館	企画展「マッチラベルの世界ーポッケの中の図像学ー」	10月30日～1月10日
三菱みなとみらい技術館	巡回展「第6・7回サイエンス展示・実験ショーアイデアコンテスト受賞展示物」	10月27日～2月13日
横浜こども科学館	企画展「ピカッと！展 あかりとひかりの秘密」	10月2日～2月20日
横須賀市自然・人文博物館	特別展示「ホテル点滅の不思議ー地球の奇跡」	8月1日～1月30日
	企画展示「きのこ」	10月9日～2月6日
	企画展示「中国大陸の蝶」	2月11日～5月29日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展「+2℃の世界ー縄文時代に見る地球温暖化ー」	12月18日～2月27日
黒部市吉田科学館	巡回写真展「第43回富士フィルムフォトコンテスト」	2月5日～3月27日
富山市科学文化センター	第13回「私の身近な自然」展	12月18日～1月23日
	写真展「自然から学ぶ」	2月3日～2月13日
	写真展「すばらしい自然を」	2月19日～4月3日
佐久市子ども未来館	「びっくり！ドッキリ！なるほどサイエンス PART 2」	12月23日～5月8日
岐阜県博物館	資料紹介展「村のお医者さんの宝物ー後藤家資料よりー」	1月4日～2月13日
	エアラインフォト展ー航空機の雄姿を追ってー	12月18日～1月30日
中津川市鉱物博物館	私の展示室「博物図ー描かれた自然ー」	12月5日～3月21日
静岡科学館る・く・る	巡回展「なんで？科学のクイズ展」	1月15日～2月6日
東海大学海洋科学博物館	海にすむ干支魚展示「海のかわいい鳥たち」	1月2日～1月16日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「エネルギー博士の部屋」	12月18日～2月20日

開催館	展覧会名	開催期間
豊橋市自然史博物館	収蔵資料紹介展「干支展 西じゃないトリ」	12月25日～1月30日
	収蔵資料紹介展「穂積俊文氏寄贈甲虫コレクション」	2月12日～4月3日
	「平成16年度新着資料紹介展」	2月5日～3月31日
トヨタ博物館	企画展「大阪万博と日本車～21世紀が未来だった時代」	11月2日～2月27日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しよう～プランクトンの不思議～」	12月23日～4月10日
みなくち子どもの森自然館	特別展「古琵琶湖時代の日本～第三紀鮮新世の化石～」	11月30日～3月13日
伊丹市昆虫館	企画展「伝説の昆虫雑誌インセクトarium」	12月15日～3月7日
姫路科学館	「姫路科学館自然写真展」	11月20日～1月10日
	「第19回未来を描く科学絵画展」	1月21日～2月20日
	「姫路科学館館蔵品展」	2月26日～3月31日
明石市立天文科学館	「全国カレンダー展」	12月15日～1月28日
	「星・宇宙を描く年賀状展」	2月1日～3月6日
橿原市昆虫館	15周年企画・第二弾「ひつつきむし、大集合！」	1月4日～2月13日
島根県立宍道湖自然館	第8回特別展「のぞけばそこにメダカたち」	12月18日～1月30日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「第12回しぜんしくらしき賞作品展」	12月12日～4月3日
広島市こども文化科学館	第6回マルチメディア作品展	1月22日～2月10日
	発明クラブ作品展	2月12日～2月26日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「エコロジー de ヘルシー」	1月5日～3月27日
広島市江波山気象館	「あそぼう！ためそう！！風船ワールド」	1月15日～3月20日
山口県立山口博物館	スポット展「よみがえった貴重な動物たち」	1月5日～1月30日
愛媛県立博物館	テーマ展「愛媛の楓（カエデ）」	12月3日～1月30日
	「えひめ生きもの写真展」	2月3日～3月24日
北九州市立自然史・歴史博物館	特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」	1月2日～2月20日
	ぽけっと企画展「北九州地域の土地のつくり」	9月6日～1月31日
	ぽけっと企画展「大地からの贈り物」	11月1日～1月31日
福岡県青少年科学館	企画展「未来をみつめる高校生の作品展」	1月19日～1月30日
	特別展「ウルトラマン・ワンダースペース」～光の国の大冒険～	2月19日～4月10日
佐賀県立宇宙科学館	冬の企画展「レンズで遊ぼう！～見よう・知ろう・楽しもう～」	12月21日～2月13日
宮崎県総合博物館	企画展「日本自然科学写真協会写真展」	12月18日～1月30日
	特別展「～街角の民俗学～近くてなつかしい昭和展」	2月19日～3月27日
鹿児島県立博物館	写真展「鹿児島の地名のついた植物」	12月18日～1月16日
沖縄県立博物館	特別展「いま・むかし、おもちゃ大博覧会～入江正彦 児童文化史コレクション」	2月15日～3月13日

【新展示】

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

[展示室名] 第2展示室「地球の生いたち」

[コーナーの名称] 「サーベルタイガーとネコ類の進化」

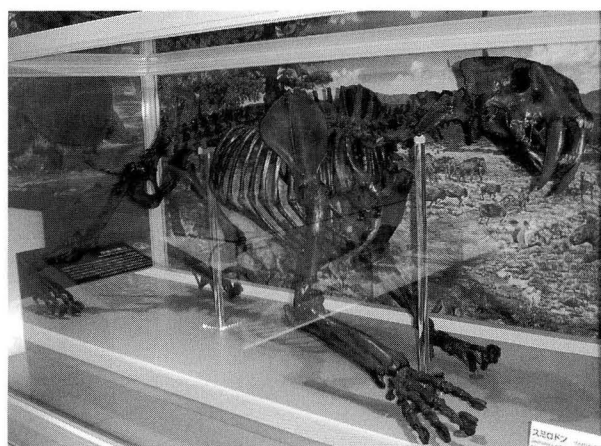
[新展示物] 「サーベルタイガーの全身骨格実物標本」

(ロサンゼルス郡立自然史博物館から長期借用)

[展示面積] 35.7㎡

[担当者(設計・施行・展示等)] 株式会社 丹青社

[公開日] 平成16年11月12日



高品質表現力

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工

kokoro

株式会社 ココロ

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL : 042-530-3939 FAX : 042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

髷東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745
<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail:info@tokyo-science.co.jp

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL <http://www.tanseisha.co.jp>

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム

メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー
投映を可能にした小型・高精細のデジタル
プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な
CG映像を投映するマルチ投映機能を持ち、
さまざまなシーンで活躍します。

▶各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル12階 TEL (03) 3349-5301
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階 TEL (06) 6110-0570
東海事業所 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
URL:<http://konicaminolta.jp/planetarium/>

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター 河野光子
滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長 高橋啓一
ミュージアムパーク茨城県自然博物館

資料課長 國府田良樹

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課長 井上透
独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課専門職員原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課 齊藤 健
Tel.03-5814-9857 Fax.03-5814-9898

発行日 平成17年1月1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社